

カガクで
ネガイを
カナエル会社
KANEKA

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

第94期 中間報告書

平成 29 年 4 月 1 日 - 平成 29 年 9 月 30 日

株式会社 **カネカ**

長期経営ビジョン

『KANEKA UNITED宣言』の体系

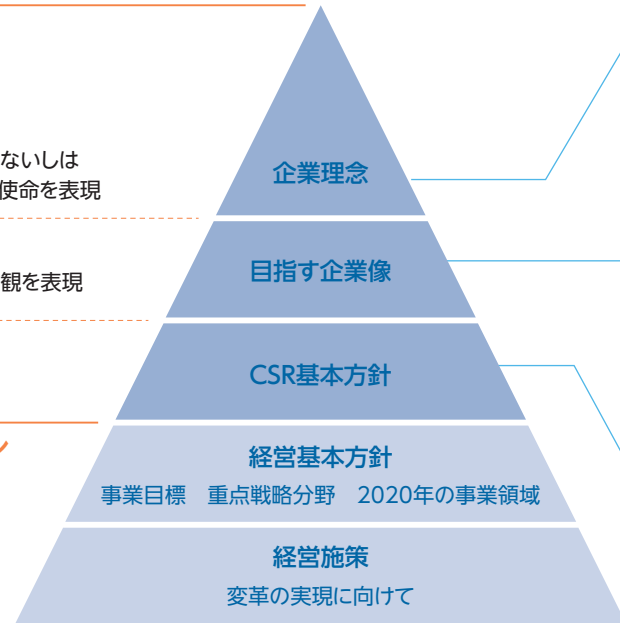
● 経営理念

カネカの存在意義ないしは究極目的、社会的使命を表現

あるべき姿および大切にしたい価値観を表現

● 経営ビジョン

具体的な経営活動方針



人と、技術の創造的融合により未来を切り拓く価値を共創し、地球環境とゆたかな暮らしに貢献します。

もっと、驚く、みらいへ。
Dreamology Company

※Dreamologyはdream(夢)とlogy(学)を合成した造語

- 未来をつなぐ
- 世界をつなぐ
- 価値をつなぐ
- 革新をつなぐ
- 人をつなぐ

カネカグループは、一人ひとりの真摯で前向きな努力による企業理念の実現を通じて、社会的責任を果たします。

トップメッセージ

Top Message

株主のみなさまにおかれましては、
平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2017年度上半期の業績及び

今後の見通しについて、

ご説明申し上げます。

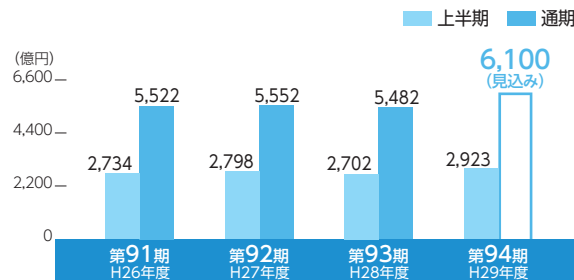


代表取締役 社長

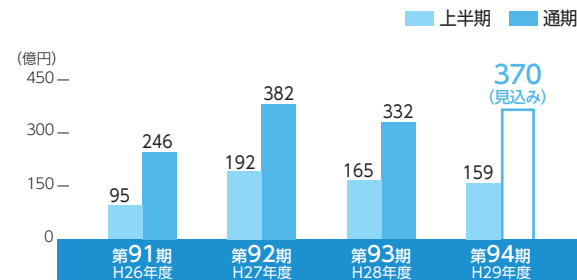
角倉 護

連結業績ハイライト

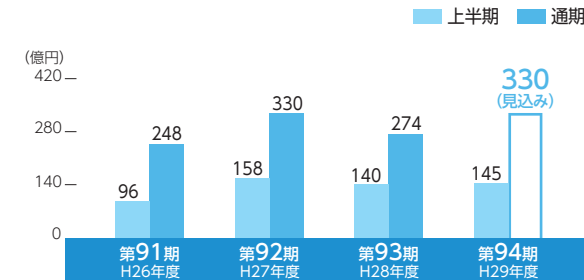
▶ 売上高



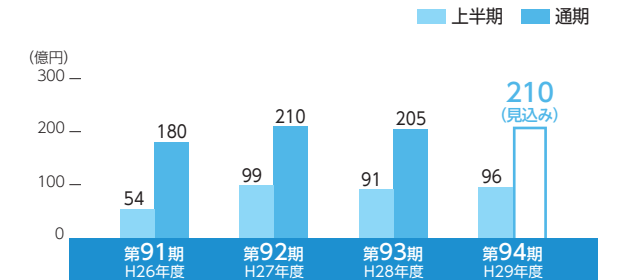
▶ 営業利益



▶ 経常利益



▶ 親会社株主に帰属する当期純利益



セグメント別の概況

1. 上半期の業績について

世界経済の緩やかな回復基調が続くなか、カネカグループの上半期の売上高は、海外市場を中心とした拡販により過去最高の2,923億円(前年同期比8.2%増)となりました。経常利益は145億円(前年同期比3.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は96億円(前年同期比5.2%増)とそれぞれ前年実績を上回りました。

2. 今後の見通しについて

当社は、今年度から経営システムを大きく変更し、技術革新による新たな価値の創出を通じて、社会の課題に対する解決策、即ちソリューションの提供を軸にしたビジネスモデルへの転換に取り組んでおります。

カネカグループの下半期業績につきましては、Material Solutions Unit (Vinyls, Performance Polymers) の需給バランスの好転と差別化された新製品の拡大、E & I のスマートフォン市場の需要の急拡大、Supplemental Nutrition (還元型コエンザイムQ10) の米国市場を中心とした拡販により大幅な増益が見込まれます。この結果、今年度通期は前年比増収増益となる見通しです。

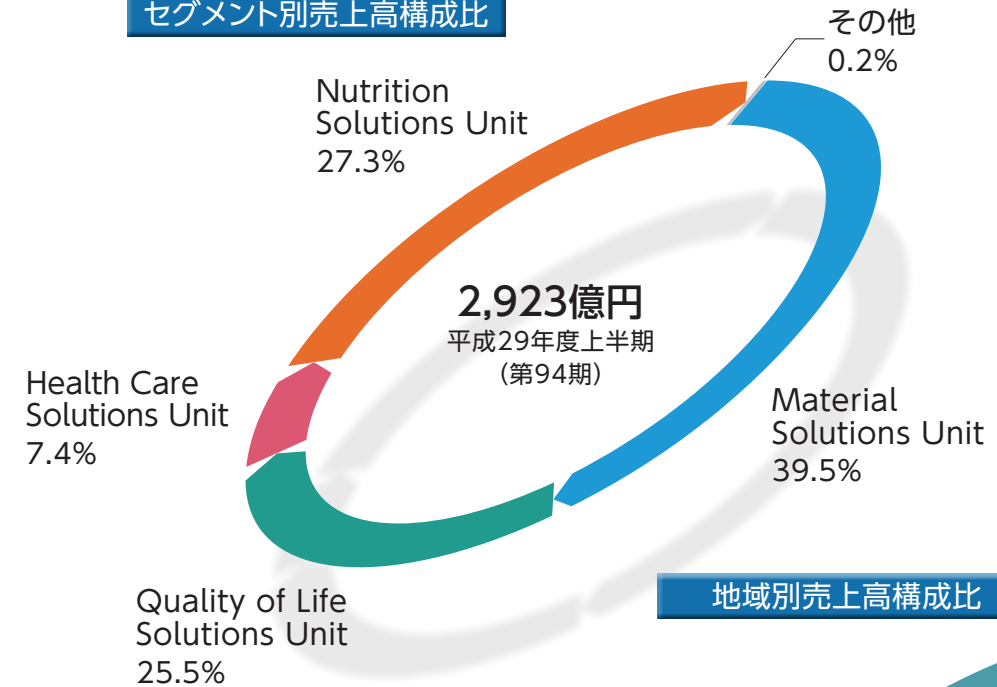
一方、営業利益につきましては、上半期初めの原料高の影響もあり、159億円(前年同期比3.5%減)と前年実績をわずかながら下回りました。

なお、中間配当金につきましては1株当たり9円とさせていただきます。

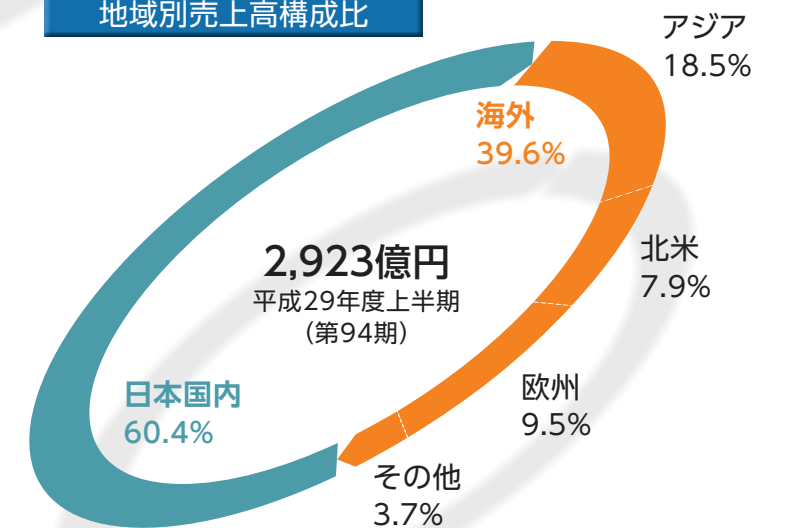
引き続き成長ドライバーを「R&D」、「グローバル化」、「人材育成」としながら、高水準な研究開発投資、大型設備投資やM&A、オープンイノベーションを積極的に推進し、コア事業の収益力強化と事業ポートフォリオの変革を更に加速してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、尚一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

セグメント別売上高構成比



地域別売上高構成比



※グラフの比率は表示単位未満を四捨五入しています。

Material Solutions Unit

地球環境保護と快適な暮らしに貢献

Vinyls and Chlor-Alkaliの一般用塩化ビニル樹脂及び水性ソープは、アジア向け販売量が増加するとともに、国内向けも堅調な販売となりました。塩素化塩ビ及び塩ビペースト樹脂は、海外市場を中心に販売が拡大しました。第3四半期以降も好調な需要が継続し、更なる業績拡大が見込まれます。

Performance Polymersのモディファイヤーは、第1四半期における主要原料価格高により採算は悪化しましたが、グローバルに旺盛な需要が続くなか、マレーシア新設備が本格的に寄与し販売が拡大しました。第3四半期以降は、原料価格も落ち着くなか、グローバルに用途拡大が進み、業績の拡大が続く見通しです。変成シリコンポリマーは、本年7月にマレーシア新設備が稼働し能力不足は解消し、更なる需要増加に応えるためベルギーでの能力増強を決定しました。

以上の結果、当Unitは売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

Quality of Life Solutions Unit

省エネルギーと豊かな暮らしの創造に貢献

E & I Technologyの超耐熱ポリイミドフィルムは、大手スマートフォンメーカーの新機種大型需要向けの生産体制の強化により、高機能品(ピクシオ®)の販売が順調に拡大しました。今後も、スマートフォンなどのデジタルデバイスの小型化・高性能化に伴い、熱対策樹脂としての超耐熱ポリイミドフィルム、超高熱伝導グラファイトシートの供給不足が懸念されます。また、ディスプレイ向けなどポリイミド樹脂技術を活用した新製品の大型需要が見込まれます。供給体制を整えることにより、更なる収益拡大を図ります。

Form & Residential Techsは、漁獲量の減少や天候不順による建築・土木工事の遅れにより販売量は伸び悩み、また主要原料価格高の影響を大きく受けました。今後は、軽量化、省エネルギー、省資源、断熱性など更なる高機能発泡樹脂製品を上市し、自動車や住宅需要の拡大により、業績を向上させてまいります。

Performance Fibersは、パイル分野の旺盛な需要により販売量は拡大しましたが、原料高の影響を大きく受けました。今後は、マレーシア工場の競争力を武器に、需要が本格的に回復する頭髪市場の拡販や新市場の開拓を進めます。

PV & Energy managementについては、高効率瓦一体型太陽電池の大手ハウスメーカー向けに販売量が引き続き拡大しています。太陽電池事業を軸に、住宅のネット・ゼロ・エネルギーハウス(ZEH)に貢献するエネルギーソリューションの提供に今後も注力してまいります。

以上の結果、当Unitの売上高は前年同期を上回りましたが、利益は下回りました。

Health Care Solutions Unit

高齢化社会・医療高度化社会に貢献

Medical Devicesは、国内・海外市場ともに販売が堅調に推移しました。インターベンション事業での他社との共同事業展開や、血液浄化事業の米国での販売体制強化による事業拡大に引き続き取り組んでまいります。

Pharmaは、API及びバイオリジクスが順調に拡大しており、国内外で能力増強を進めています。低分子医薬品原料は販売が集中した前年同期に比べ販売量が減少しましたが、第3四半期以降は販売が回復する見込みです。

以上の結果、当Unitは売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

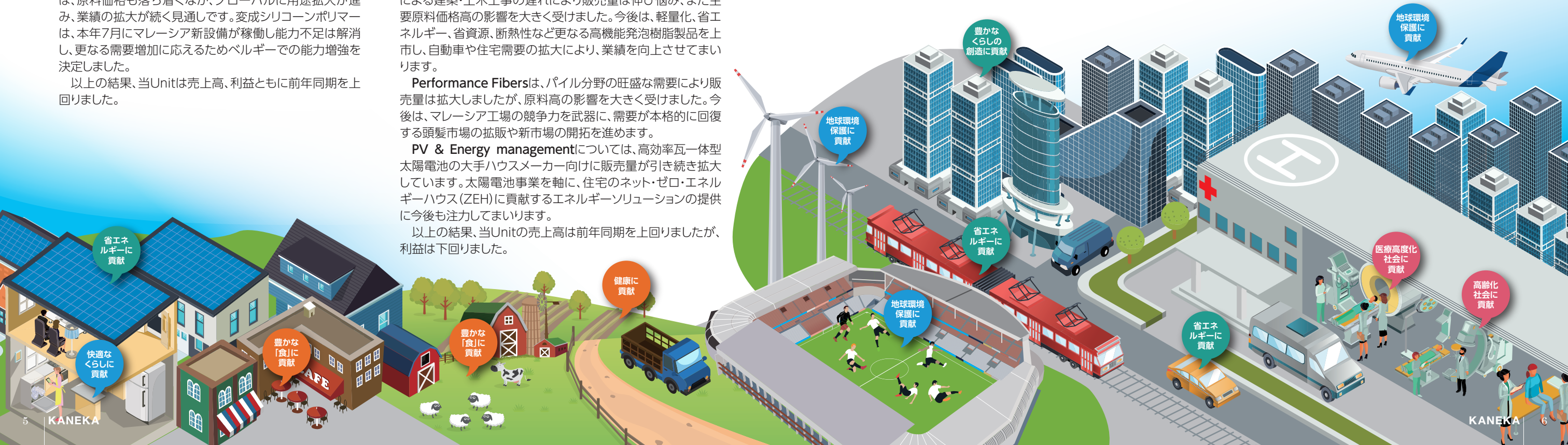
Nutrition Solutions Unit

健康と豊かな「食」に貢献

Foods & Agrisは、国内需要が伸び悩むなか新規の食品素材を武器にした大手製パン、コンビニエンスストアや食品メーカーへの積極的な提案型営業を進め販売が拡大しました。

Supplemental Nutritionについては、還元型コエンザイムQ10は米国市場を中心に販売量が増加し、業績に大きく貢献しました。引き続き第3四半期以降もグローバルに業績拡大が進む見通しです。

以上の結果、当Unitは売上高、利益ともに前年同期を下回りました。



“人・ものを美しく見せる”カネカ有機EL照明で 価値をつなぐ こだわりの場所にこだわりの光を

当社の有機EL照明は明るさの追求だけではなく、“照らす人・ものをいかに美しく見せる”に注力し、これまで美術館・博物館への採用で実績を積んできました。

その価値は徐々に浸透し、活躍の場を広げています。

社内ネットワークを活用したベーカリー業界への展開



ベーカリー向け
棚下照明



“パンをより美味しく見せる”という用途に気がついたのは当社Foods & Agris Solutions Vehicleが主催するフードフェスタ(2017年度は東京・札幌・福岡3場開催)への有機EL照明の出展がきっかけでした。有機EL照明の温かみのある電球色はパンの表面の焦げ目を引き立たせ、面発光による拡散された光は余計な影をつくらずパン全体を包み込むように照らすことができます。

また、熱の発生が少ないため、他の光源に比べパンを乾燥させにくいこともベーカリー向けの棚下照明として注目されるきっかけになりました。

その結果、照明にこだわりを持った業界トップクラスのオーナーシェフに採用していただいたことが業界専門誌を通して発信され、これまで棚に照明を入れていなかった店舗にも新たな価値の提供につながっています。

食品事業関連と有機EL照明の新たな取り組みは当社の強みである多岐にわたる事業展開の活用と連携により幅広い分野へと訴求スピードを加速させています。

カネカの^{つなぐ}“絆”とは…

当社は「もっと、驚く、みらいへ。」のコンセプトの下、「未来をつなぐ」「世界をつなぐ」「価値をつなぐ」「革新をつなぐ」「人をつなぐ」の5つの“絆(つなぐ)”に取り組んでいます。

伝統ある服飾店舗で価値をつなぐ

今般、米国ニューヨークのマンハッタンにあるエール倶楽部のビルに、店内を全て当社有機EL照明で照らした服飾店舗(J.PRESS)がオープンしました。有機EL照明による店内はまぶしい光が一切なく、その雰囲気は格式と伝統の重みを感じさせます。さらに、スーツ、ワイシャツ、ネクタイなどは照明による影が少なく、太陽光に近い光により自然な色合いを再現しています。来店したお客様は心地よい雰囲気の中でゆっくりと買い物ができる喜んでおられました。



J.PRESS室内風景



J.PRESS外観

美容向けの人を美しく見せる照明



メイク用ミラー照明

美術館・博物館で評価された色の再現性の高さや光のやわらかさはメイク用の照明として美容業界への採用が進んでいます。

顔を正面から照らすことを求められるメイク用照明ですが、これまでの光源では光が強すぎるため、まぶしすぎて目に残像が残るなどの悩みが多く寄せられました。また、照明によっては血色が悪く見えることもあり、メイクのしやすさにも影響します。

有機EL照明は、正面から照らしてもまぶしさを感じにくく、高演色性*であるため太陽光に近い光でより自然に見え、その薄さも活かして鏡の中に組み込んだ一体型のメイク用ミラーとして百貨店の化粧品売り場への採用が相次いでいます。

人を美しく見せる有機EL照明は今後女性への人気が高まることが期待されます。

今後も“人・ものを美しく見せる”ことにこだわり、人々の生活に新たな価値を絆(つなぐ)とともに、当社の事業間の垣根を越えた価値の提供を実施してまいります。

*演色性とは、照明による物体の見え方の特性のこと。Ra(平均演色評価数)が100に近いほど、対象物は自然な色味に近づく事になります。

トピックス

Topics

▶ 米国高機能樹脂配合メーカーを買収



Kaneka Aerospace LLC

当社は、今後大きな成長が期待される航空・宇宙分野での事業拡大を目的として、本年8月に高機能樹脂配合メーカーである米国Applied Poleramic Inc.を買収し、9月1日より新社名Kaneka Aerospace LLCとして本格的に活動を開始しました。

航空・宇宙分野では、航空機エンジンなどの高温になる部品やロケットの部材用途に高機能複合材の需要が急速に拡大しています。同分野での高機能複合材市場は今後10年で年率10%以上の成長が見込まれ、2,000億円を超える市場規模に達すると予想されています。

現在、当社は同市場に対して、ポリイミドフィルム(アピカル®)やエポキシ樹脂用韧性改質材(カネエース®MX)などの高機能素材を提供しています。今回の買収により両社のコア技術を融合し当該市場での事業拡大を加速させるとともに、更なる買収・提携の実行や当社の日米を含めたグローバルR&D資源を最大限に活用した研究や製品開発を推進することで、2025年には同分野において売上高200億円を目指します。

▶ タイにビーズ法発泡ポリオレフィン工場を新設 — バンコクオフィスも開設 —

当社は、東南アジア・インド地域での旺盛な需要に対応するとともに更なる事業拡大を目指して、タイ王国(以下、タイ)ラヨーン県ヘマラート・イースタン・シーボード工業団地にビーズ法発泡ポリオレフィンの生産設備新設を決定しました。約20億円を投じKaneka (Thailand) Co.,Ltd.が年産3,000トンの生産設備を2018年9月に稼働させる予定です。マレーシアのKaneka Eperan Sdn. Bhd.の既存設備とあわせて、当地域の生産能力は年産6,000トン超となります。

また、新設備稼働に先がけて、本年10月に、Kaneka (Thailand) Co.,Ltd.バンコクオフィスを開設しました。タイは自動車のみならず電機・電子製品、食品などの東南アジア最大の産業集積地であることに加え、近年ではバイオ医薬、医療、エネルギーをはじめとした高付加価値型産業の導入・育成を積極的に推進しています。市場開発機能を強化し、タイでの当社事業の拡大を目指します。



Kaneka(Thailand)Co.,Ltd.の起工式

CSR

2020年 東京五輪 男女マラソン代表選考レース(初戦)に協賛(北海道マラソン)



大盛況のカネカブース

今年で協賛5年目を迎えた「北海道マラソン」が8月27日に開催されました。本年は、2020年の東京五輪の男女マラソン代表選考レース「グランドチャンピオンシップ(GC)シリーズ」の初戦となり、男女1位選手がともにGC出場権を獲得しました。

大会前に開催された「北海道マラソンEXPO」では、当社ブース内にてランナー向けに、フォームチェックやスポーツマッサージのほか、アスリート用「還元型コエンザイムQ10」の配布を行いました。

また当社の素材を使用したパンの提供や、今年設立したカネカ北海道紹介コーナーなどを設け、ランナーのみならず地域の方もまじえてイベントを盛り上げました。

大会当日、男子ランナーが着用するゼッケンや距離表示板や看板、ゴールテープ、そして沿道ののぼりなどに当社のロゴを掲出し、北海道に根を下ろした当社を知っていただく良い機会となりました。

摂津の森 カネカビオトープで 「ホタル観賞会」と「アンサンブルコンサート」を開催

大阪工場敷地内にある摂津の森 カネカビオトープ*1において、今年で4年目を迎えるホタル鑑賞会を開催しました。地域のみならずとって恒例行事となったカネカビオトープが5月27日～6月4日に一般開放されました。

また今年も、日本センチュリー交響楽団*2によるアンサンブルコンサート〔管弦楽四重奏(フルート・バイオリン・ヴィオラ・チェロ)〕も当社内厚生施設で開催され、関連する11自治会の地域の皆様や社員とその家族など、約90名超と多数の方が参加され、クラシック音楽を堪能されました。

今後も地域に開かれた工場として、CSR活動を継続していきます。

*1 ビオトープは、生物群集が存在できる環境条件を備える地域のことです。

*2 当社は2016年10月より、日本センチュリー交響楽団の法人サポーター会員として、当社の文化活動の支援や社会貢献活動への理解促進につなげています。



摂津の森 カネカビオトープ
での「ホタル観賞会」



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

▶ 四半期連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

科目	第94期 平成29年9月30日現在	第93期 平成29年3月31日現在
資産		
流動資産	2,981	2,804
固定資産	3,256	3,125
資産合計	6,237	5,929
負債		
流動負債	1,878	1,690
固定負債	996	1,023
負債合計	2,874	2,713
純資産		
株主資本	3,029	2,976
その他	334	239
純資産合計	3,363	3,216
負債純資産合計	6,237	5,929

Point

- **総資産**は、売上債権、有形固定資産や投資有価証券の増加等により、前期末に比べ308億円増の6,237億円となりました。
- **負債**は、支払手形及び買掛金の増加等により、前期末に比べ161億円増の2,874億円となりました。
- **純資産**は、利益剰余金やその他有価証券評価差額金の増加等により、前期末に比べ147億円増の3,363億円となりました。

▶ 四半期連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

科目	第94期 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	第93期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
売上高	2,923	2,702
営業利益	159	165
経常利益	145	140
税金等調整前四半期純利益	140	137
親会社株主に帰属する四半期純利益	96	91

Point

- **売上高**は、前年同期に比べ221億円の増収(前年同期比8.2%増)となりました。
- **営業利益**は、前年同期に比べ6億円の減益(前年同期比3.5%減)となりました。
- **経常利益**は、前年同期に比べ4億円の増益(前年同期比3.2%増)となりました。
- **親会社株主に帰属する四半期純利益**は、前年同期に比べ5億円の増益(前年同期比5.2%増)となりました。

▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

科目	第94期 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	第93期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	216	262
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 195	△ 203
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 44	△ 87
現金及び現金同等物の四半期末残高	395	392

Point

- **営業活動**によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により216億円の収入となりました。
- **投資活動**によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により195億円の支出となりました。
- **財務活動**によるキャッシュ・フローは、配当金の支払や自己株式の取得による支出等により44億円の支出となりました。
- この結果、**現金及び現金同等物の当第2四半期末残高**は、395億円となりました。

※詳細の情報をお知りになりたい方は、当社WEBサイトをご覧ください。

カネカグループの概要

Outline of KANEKA Group

(平成29年9月30日現在)

▶ 国内ネットワーク

Material Solutions Unit	■ 昭和化成工業(株)	■ 龍田化学(株)	■ サンビック(株)	
	■ セメダイン(株)	■ セメダインオートモーティブ(株)		
Quality of Life Solutions Unit	■ カネカ北海道スチロール(株)	■ カネカ東北スチロール(株)	■ カネカ関東スチロール(株)	■ カネカ中部スチロール(株)
	■ カネカ西日本スチロール(株)	■ 関東スチレン(株)	■ (株)羽根	■ 玉井化成(株)
	■ 高知スチロール(株)	■ カネカフォームプラスチック(株)	■ カネカケンテック(株)	■ 北海道カネライト(株)
	■ 九州カネライト(株)	■ (株)カネカソーラーサーキットのお家	■ ダイヤケミカル(株)	■ 栃木カネカ(株)
	■ カネカソーラーテック(株)	■ (株)ヴィーネックス	■ カネカソーラー販売(株)	■ OLED青森(株)
	■ イビデン樹脂(株)	■ (株)イーピーイ		
Health Care Solutions Unit	■ (株)カネカメディックス	■ (株)大阪合成有機化学研究所	■ (株)リバーセイコー	
Nutrition Solutions Unit	■ カネカ食品(株)	■ (株)カネカフード	■ (株)東京カネカフード	■ (株)カネカサンスパイ
	■ 太陽油脂(株)	■ 新化食品(株)	■ 長島食品(株)	■ カネカユアヘルスケア(株)
その他	■ (株)カネカ北海道	■ (株)カネカ高砂サービスセンター	■ カネカ保険センター(株)	

▶ 海外ネットワーク

ヨーロッパ	■ カネカヨーロッパホールディングカンパニーN.V.	■ カネカベルギーN.V.	■ カネカファーマヨーロッパN.V.
	■ カネカユーロジェンテックS.A.	■ カネカモディファイヤーズドイチュラントGmbH	
アメリカ	■ カネカアメリカズホールディングInc.	■ カネカノースアメリカLLC	■ カネカファーマアメリカLLC
	■ カネカエアロスペースLLC		
アジア/オセアニア	■ カネカシンガポールCo.(Pte)Ltd.	■ カネカマレーシアSdn.Bhd.	■ カネカエペランSdn.Bhd.
	■ カネカペーストポリマーSdn.Bhd.	■ カネカイノベティブファイバースSdn.Bhd.	■ カネカアピカルマレーシアSdn.Bhd.
	■ カネカMSマレーシアSdn.Bhd.	■ PT.カネカフーズインドネシア	■ カネカタイランドCo.,Ltd.
	■ 鐘化(蘇州)緩衝材料有限公司	■ 鐘化(佛山)高性能材料有限公司	■ 青島海華纖維有限公司
	■ 鐘化企業管理(上海)有限公司	■ 鐘化貿易(上海)有限公司	

■印は連結子会社、■印は持分法適用関連会社であることを示します。
 連結子会社の数 83社 (上記以外に連結子会社が21社あります。)
 持分法適用関連会社の数 3社 (上記以外に持分法適用関連会社が1社あります。)

(平成29年9月30日現在)

会社の概要

社名 株式会社 **カネカ**
(KANEKA CORPORATION)
本社 〒107-6028
東京都港区赤坂1丁目12番32号
(アーク森ビル)
TEL (03)5574-8000(代表)
設立年月日 昭和24年9月1日
資本金 33,046,774,709円
ホームページ <http://www.kaneka.co.jp/>

役員

代表取締役会長 菅原 公一
代表取締役社長 角倉 護
取締役副社長 田中 稔
取締役専務執行役員 亀高 真一郎
取締役常務執行役員 岩澤 哲
取締役常務執行役員 天知 秀介
取締役常務執行役員 石原 忍
取締役常務執行役員 藤井 一彦
取締役常務執行役員 塗 靖明
取締役(社外) 井口 武雄
取締役(社外) 毛利 衛
監査役(常勤) 松井 英行
監査役(常勤) 岸根 正実
監査役(社外) 藤原 浩
監査役(社外) 魚住 泰宏

株式の状況

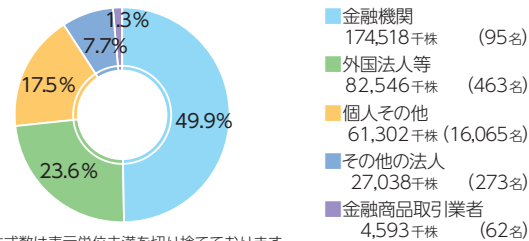
発行可能株式総数 750,000,000株
発行済株式の総数 350,000,000株
株主数 16,958名
1人当たり平均持株数 20,639株

大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	17,676	5.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16,681	5.08
日本生命保険相互会社	15,570	4.74
株式会社三井住友銀行	15,458	4.71
明治安田生命保険相互会社	14,125	4.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	13,342	4.07
株式会社三菱東京UFJ銀行	11,544	3.52
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	10,768	3.28
三井住友海上火災保険株式会社	10,524	3.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	8,511	2.59

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨てております。
2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入しております。
3. 上記のほか、当社が保有している自己株式が21,816千株あります。

所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨てております。
2. 比率は小数第二位を四捨五入しております。

WEBサイトのご案内

<http://www.kaneka.co.jp/>

IR情報
社長メッセージや適時開示情報・財務情報などを掲載しています。

カネカCM
スペシャルサイト
CM動画も
ご覧いただけます。

街のいたるところで活躍している
カネカ製品をご紹介します。

お家のお話
ぐっすり眠りたい、ゼロエネルギーで暮らしたい
そんなカネカならではの家づくりをご紹介します。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年	
定時株主総会	6月	
基準日	定時株主総会	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告方法	電子公告 http://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html	
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (お問合せ先) TEL 0120-094-777(通話料無料)	

(注) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

(カバーアート)アーティスト: 曾谷朝絵
・タイトル: 風の色
・制作年: 2016

